



地域連携について

副院長 上條 由美



昭和大学江東豊洲病院では、「地域と連携する医療」を理念のひとつとして掲げて力をいれています。医療が高度化、専門化し、あらゆる医療ニーズが高まる中、1つの病院で地域の全患者を受け入れることはもはや不可能といえるでしょう。当院は、急性期疾患に対応する二次医療機関として、地域医療機関からの紹介患者を受け入れる急性期病院を目指しています。したがって医療機関から紹介いただいた患者さんを優先するように常にこころがけています。患者さんには紹介状を持って受診していただくこと、症状が落ち着いたら地域医療機関で経過を観察してもらうことをお話しています。こうした紹介と逆紹介を推進して、地域の医療機関との役割を明確にして連携することが、地域の住民に対して適切な医療を提供できる最適な方法と信じています。

地域連携強化のために、選定療養費を徴収しています。選定療養費とは、紹介状をお持ちでない患者さんに保険外併用療養費として自己負担金を請求する制度です。これは紹介状を持っている患者さんと持っていない患者さんとの間に差を設けるためです。紹介状のない患者さんを一切診察しないという方法もありますが、地域医療貢献の観点からすると好ましくないと考えて、料金を徴収する方法をとっています。この制度は、あくまでも地域医療連携推進のための措置として採用しています。

地域連携の推進は、地域の医療機関が何を求めているのか、地域住民の医療ニーズは何なのかを考えながら、自身の医療機関の「立ち位置」を考える良い機会でもあります。自分達の提供できる医療を提示するだけでは、自己主張ばかりでよい関係性は構築できません。当院は、地域完結型医療を実践することを目標としています。人間関係を深めるのにも時間がかかるように、医療機関の関係も同じなのかもしれません。できるだけ速やかに、良い関係性が構築できるように努力いたしますので、これからもよろしくお願いいたします。



第3号のトピックス

- 副院長挨拶
- 診療科紹介
— 小児科センター

◆診療科紹介 こどもセンター 小児内科教授 水野 克己

こどもセンターは小児内科・新生児科・小児外科の3部門からなり、13名の医師から成り立っています。3部門といってもそれぞれの垣根はなく、小児を包括して診療できる体制づくりを目指しています。江東区ならびに近隣にお住まいの方が安心して子育てできるように取り組んでまいります。

一般小児科

こどもセンター小児内科部門は、新生児から中学校を卒業するまでのお子さんの内科的な診療を行っております。

病院の理念に沿って子どもに優しい病院を目指し①1人ひとりのお子さんに沿ったまごころの医療を提供し、②安心してお子さんを預けてもらえ、③地域の開業の先生方と連携し、気軽に相談していただける病院を目指しております。

また、大学病院の責務として④今後の小児医療を担う人材の教育を行っております。

<一般診療>

小児科の外来診療は月曜から日曜まで、休日や祭日に関わらず8:30～14:00に行っております。これらは予約制、紹介受診が原則となっております。ですが、こどもの病気の多くが熱が出る、けいれんするといった急に起こる病気であるため、紹介状や予約がない時間外診療なども対応しております。また、救急外来は毎日24時間対応しております。

<専門診療>

午後は専門外来となっております。心臓・腎臓・アレルギー・血液・精神神経などの外来を完全予約制で行っております。



こどもセンター外来

<こどもセンター入院病棟>

こどもセンター入院病棟は40床を有し、年々人口が増え、大きく発展してきている江東区において最大の小児病棟となっております。入院が必要な小児は、原則として5階B病棟（こどもセンター）に入院します。ここでは小児内科だけでなく、必要に応じて小児外科や耳鼻科、整形外科、脳神経外科など、様々な科が連携をとりお子さんの診療にあたります。



こどもセンター病棟スタッフステーション

NICU/GCU : 新生児医療

NICU/GCUは、こどもセンターの新生児部門として、早産・低出生体重児をはじめ、先天性疾患や妊娠・分娩経過で治療が必要と判断された赤ちゃんを受け入れるための病棟です。江東区で唯一の新生児集中治療施設であり、当院出生に限らず、近隣の病院より新生児の救急搬送を受け入れています。



こどもセンター 水野克己小児内科教授回診

当院は、産婦人科とNICUが併設している利点を生かし、日ごろからカンファレンスを綿密に行うことで、胎児期からの一貫した診療が可能となっています。また、スタッフは新生児医療に経験豊富（新生児専門医、新生児集中ケア認定看護師、薬剤師、臨床工学士など）であり、高度医療を担うとともに、母乳育児の推進や赤ちゃんが快適に過ごせる環境づくり等、赤ちゃんやご家族にやさしいNICUとなるように努めています。

小児外科部門

小児外科は3名のスタッフで診療を行っていますが、こどもセンターの一員として、小児内科、新生児科、産科医師などと一緒に、24時間体制で救急にも対応しています。

小児外科の守備範囲は広く、両手におさまるような小さな新生児から、成人と同じような体形の中学生まで、頭部、心・大血管、整形外科領域を除いた、15歳以下の小児の外科疾患全体について扱っており、内視鏡手術、臍部小切開による手術などを積極的に取り入れ、低侵襲な治療を目指しています。そけいヘルニアなどの比較的負担の少ない手術に関しては、原則2泊3日の入院での手術を行っています。また、私たちは外科の守備範囲だけに留まらず、小児医療の専門家として、他の診療科や地域医療を担う一般病院や開業医の先生方との間のコーディネーターとしての役割にも力を注いでおり、より専門性の高い疾患については、状況により各専門施設に紹介する場合があります。どうぞお気軽に相談していただければと思います。

小児は大人に比べ単に小さいという存在ではなく、からだの機能、成長、精神面において特有な特徴を持っています。小児外科疾患は多岐にわたり、その治療法もお子さん個々に応じた対応が必要となります。私たちは、常に「もし、自分のこどもがこの病気だったらどうするか」を考えつつ、ご家族と十分相談した上で納得のいく最善の医療を提供できることを約束いたします。



編集後記 外科系診療センター 中村 明央

なかむら あきお

関東地方も梅雨入りとなり、新たな季節を迎えました。当院も開院当初の慌ただしさから、少し落ち着きを取り戻してきました。広報委員会では今後、様々な活動を行っていく予定です。まずは6月よりフェイスブックを始めました。病院からの風景、診療トピックス、病院の一日など多岐な分野にわたり、いろいろな情報をリアルタイムに発信していきたいと思います。是非一度、ご覧下さい。そして、「いいね！」をお願い致します。



昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲5-1-38

TEL03-6204-6000 (代表)

発行責任者：新井一成 編集責任者：長谷川真

